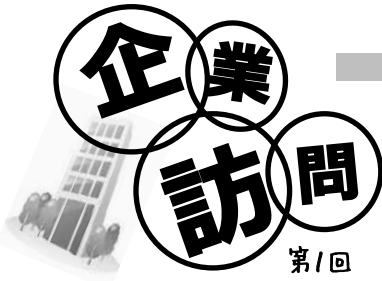


全東急ストア労働組合 の巻



第1回

【お話を伺った方々】

■中央執行委員長 嶋 成晃さん

■中央副執行委員長 片衛 賢司さん ■本部事務担当 川村 友香さん

【聞き手】 認定NPO法人ぱれっと理事長 相馬宏昭

【取材スタッフ】 事務局長 南山達郎(記事作成) おかし屋ぱれっと 松本亜沙子

今月号より新コーナー「企業訪問」の連載が始まります。ぱれっとはどのような企業のどのような《想い》に支えられて活動を続けているか、取材を通して今一度振り返ってみたいと思います。記念すべき第1回は、最も長い間ご支援を頂いてる、おかし屋ぱれっとのお客様のひとつ、「全東急ストア労働組合」様です。

●ぱれっととのつながりは・・・

《相馬》全東急ストア労組様とは27年という長きにわたるお付き合いになります。初めておかし屋ぱれっとにご注文を頂いたのが・・・1990年の暮れでしたか。

《嶋》もうそんなになるんですね。私は今年入社30年で、最初は組合には関わっていませんでしたので初めからではないのですが、広報担当として組合の仕事をすることになってからはずっとクッキーを扱わせてもらっています。

《相馬》最初の頃の様子を少し教えてくださいませんか？

《嶋》聞いた話になりますが、当時はパートの組合員さんで、女性の就業率が高く、施設の子どもさんたちに手縫いのリュックにお菓子を詰めて配るといったような社会貢献活動が行なわれていたようです。そこからクッキーの取引につながったようですね。

《相馬》注文が沢山で、私たちだけではこなせずに、組合員の方々にも箱折りを手伝っていただいたり。

《嶋》そうでしたね。それから新入組合

員に、組合の社会貢献について知らせる目的で配布して食べてもらったりもしました。実際の物を見せるのが一番ですからね。お話にも来て頂きましたね。

《相馬》そうでした。通所員を連れて伺いました。

《嶋》確か・・・河合さん？

《相馬》そうです！良く覚えていらっしゃいますね。でも、何年か続いた後で、「どうしていつもぱれっとのクッキーなのか？」という疑問の声が内部から上がったように記憶していますが。

《嶋》そうでしたね。でもその時に申しあげたのは「ぱれっとも組合も、一年に一回のイベントとして共に協力して今の規模と流れを作り上げたので、この貢献の形は崩したくないんですよ」ということでした。さらに言えば、当時から、福祉という言葉に甘えず、品質に妥協せずに、我々の無理も快く引き受けてくださるぱれっとの姿勢も有りがたかったですね。

《相馬》そこを認めてくださったのはとてもありがたいことで、今も大きな自信となっています。最近、川村さんから、

組合員の総数は減ってきているというお話を伺いましたが、注文はむしろ若干増えてきていますよね？

《川村》そうですね。ぱれっとのクッキーに関しては、店舗の従業員を始め、出向、休職者の方へも個別に案内をしています。最近ではテナントの方やご案内を見たご家族の方からご注文を頂くこともあります。広がりを見ていると、皆さん毎年とても楽しみにしている様子が伝わってきます。

●会社の取り組み・組合の活動について

《相馬》ありがとうございます。少し話は変わりますが、東急ストアとしては、例えば社会貢献の一環として、障がい者雇用などは進めていらっしゃいますか？

《片衛》会社としての雇用率は2.04%とのことで、68名の障がい者が各店舗で活躍されています。主に食品などの加工部門での勤務です。重度の方も5名勤務されています。

《相馬》法定雇用率2.0%は達成されているということなんですね。ホームページの社会貢献情報には掲載されていませんが・・・。

《嶋》これは想像ですが、特に社会貢献という意識ではなく、障がいのある人たちを雇用するのは今の時代、当たり前という認識なのかも知れません。地域密着の流通なので、社会貢献というと、やは

り地域社会とか、消費者に向けてどう対応しているかということがメインになっているように思います。例えば子どもたちの職業体験の場として店舗を使ってもらうケースは聞いています。

《相馬》なるほど良くわかりました。最後の質問になりますが、組合としては、組合員の皆さんにどういう想いで接していращやいますか？

《嶋》親しみやすい組合活動を目指しています。何か困った時に組合があつて良かったと言ってもらえたり、良いことがあつたら皆で共有して良かったねと言いあえるような。仕事の中身はそれぞれ違いますが、皆東急ストアの仲間ですからね。

《相馬》そういう想いは広報誌の「Atlas」にも表れていますよね。子どもさんが登場したりとか。

《嶋》広報誌は手間もかかるのでやめてしまう組合も多いと聞きますが、こうした想いを伝えるには大切なツールですね。

《相馬》今日はお忙しい中ありがとうございます。担当の川村さんは、ぱれっとに何かご要望はありますか？忌憚のないところで。

《川村》いえいえ(笑。いつも納期とか無理を言ってしまう。要望と言うより、今後も継続してほしいと思っています！

《相馬》ありがとうございます！こちらこそよろしくお願ひいたします。

【取材を終えて】「ぱれっとのクッキーは“品質に妥協せず、良い商品を作っている”という理由で27年間継続してご注文頂いていることがわかりました。ぱれっとの製品が組合員の方のみならずそのご家族やお知り合いの方にも広がり、毎年楽しみにされているお客さんがいるという声を聞き、これからもメンバーの皆さんと一緒にますます良い商品を作っていこうという励みになりました。」(おかし屋ぱれっと新人職員 松本亜沙子)